

平成17年11月21日  
株式会社 新生銀行  
(コード番号: 8303)

## マルチセラー事業証券化プログラムの組成について

当行は、このたびパチンコ事業キャッシュフローを裏付とした証券化プログラム「アーケード・ファンディング」を組成し、その第1号として、業界第7位の株式会社ダイエー(本社:福島県会津若松市。以下「ダイエー」)と250億円の証券化組成について合意いたしました。これは、今後複数の同種案件を実行した後にこれらを併せた大型のリパッケージ証券を発行することを視野に入れた、邦銀初の「マルチセラー事業証券化(WBS)」プログラムの一環として実行するものです。

事業の証券化(WBS = Whole Business Securitization)は証券化の手法としては最も新しく、裏付資産の処分価値ではなく、特定の事業から継続的に生み出される将来のキャッシュフローを裏付けとして投資商品を組成するものです。既に海外市場において WBS は、安定したキャッシュフローを持ち、中小規模の事業主体が多く存在する業種にふさわしい証券化手法として発達しています。当行では、パチンコ産業の安定したキャッシュフローが WBS に適していると判断し、本件プログラムを開発いたしました。第1号案件では、ダイエーが運営するパチンコパーラーのうち17店舗の営業キャッシュフローを切り出し証券化することにより、ダイエー本体の信用力を超える格付けを取得する見込みです。(別添スキーム概要図参照)

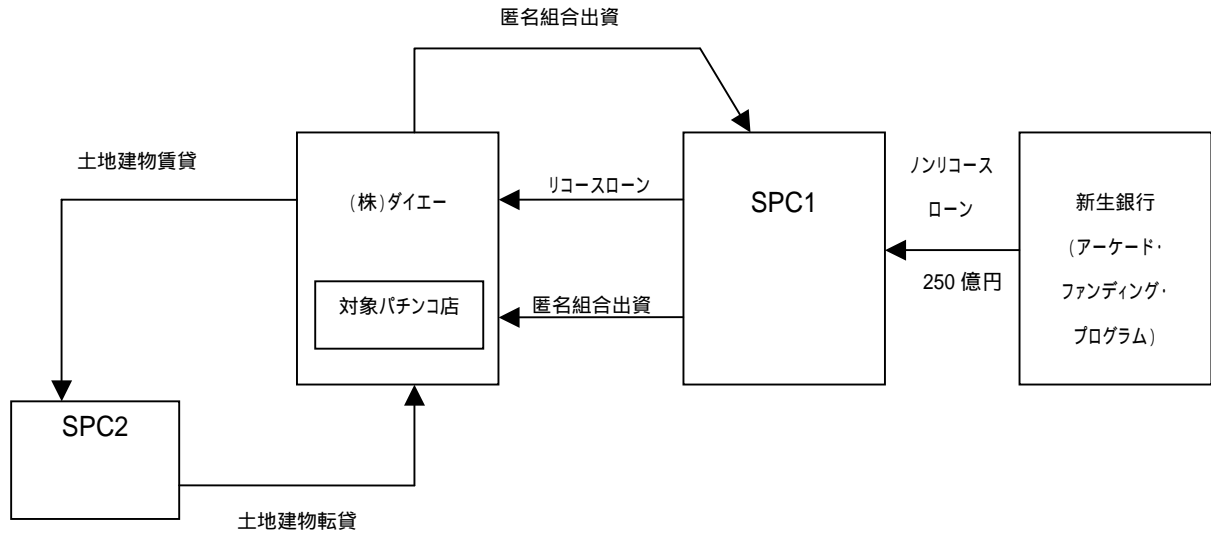
当行は、平成15年に住宅ローンの証券化(MBS)において複数のオリジネーターのMBSを束ねてリパッケージする手法(「ハイドラ」シリーズ)を開発いたしました。本件でも同様に、複数のオペレーターへのWBSを組成し、自ら保有した上、リパッケージ証券を発行する予定です。この手法により、より分散の効いた安全で魅力的な投資商品を、適切な時期に投資家に販売することが可能になります。

一方、WBS は事業の継続性と収益性に依存する証券化手法であるため、将来収益が十分に確保できると予想される場合には、物件価格に依存する従来の不動産担保融資に比べ多額の調達も可能となります。また、「アーケード・ファンディング」では、マルチセラーの手法を採用することで、これまで直接に資本市場へのアクセスを持てなかった中小規模のオペレーターに対し、有力な資金調達手段を提供することとなります。

新生銀行グループでは、これまでに培ってきた証券化ノウハウと事業分析能力をWBSの組成に活かし、今後は病院や介護施設などに対しても同様の事業証券化プログラムを拡大してゆく計画です。これらの活動が資本市場の拡大ならびに投資家にとっての新たな投資機会創出に資するものと考えています。

以 上

アーケード・ファンディング 1号案件 スキーム概要図



SPC = 特別目的会社